その日本語、伝わっていますか？

池上彰

Ikegami Akira

+α
プラスアルファ

常州大学図書館
藏書章

その日本語、伝わっていますか?

池上　彰

講談社+α文庫

池上 彰—1950年、長野県松本市に生まれる。慶應義塾大学経済学部卒業後、1973年、NHK入局。2005年まで32年間、報道記者として、さまざまな事件、災害、消費者問題、教育問題などを担当。1994年から2005年まで「週刊こどもニュース」のお父さん役を務める。現在はフリージャーナリストとして多方面で活躍。著書には『伝える力』(PHPビジネス新書)、『わかりやすく〈伝える〉技術』(講談社現代新書)、『そうだったのか！』シリーズ(ホーム社)、『池上彰の学べるニュース』(海竜社)、『大人も子どももわかるイスラム世界の「大疑問」』(講談社＋α新書)などがある。

講談社＋α文庫 その日本語、伝わっていますか?

池上 彰

©Akira Ikegami 2011

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。

2011年3月20日第1刷発行

発行者——鈴木 哲
発行所——株式会社 講談社
東京都文京区音羽2-12-21 〒112-8001
電話 出版部(03)5395-3532
販売部(03)5395-5817
業務部(03)5395-3615
カバーイラスト—山本重也
帯写真——杉山和行
デザイン——鈴木成一デザイン室
カバー印刷——凸版印刷株式会社
印刷——慶昌堂印刷株式会社
製本——株式会社国宝社

落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部あてにお送りください。
送料は小社負担にてお取り替えします。
なお、この本の内容についてのお問い合わせは
生活文化第三出版部あてにお願いいたします。
Printed in Japan ISBN978-4-06-281416-4
定価はカバーに表示してあります。

目次◉その日本語、伝わっていますか？

文庫版によせて　3

まえがき　5

第一章　放送で苦労しています

東京と長野の間を走る？　20
「暦の上」とはどんなカレンダー？　21
埼玉の「吉見百穴」を何と読む　22
みんなが知っている二荒山神社　24
「水面」は「みなも」か「みのも」か　25
雨模様なのに雨が降っている　26
新聞記事に「鳥肌が立った」！　27
間違った用法でも定着する　29
言葉の問題点①
標準語か共通語か　30
言葉の問題点②
ニュース用語は話し言葉？　31

第二章　とっても気になります

言わさせていただきます　34
言葉の問題点③
　コーヒーでいいです　37
「チョー」が超多すぎる　38
疑問に思っているの？　40
押しつけじゃないですか　42
平板化するアクセント　43
言葉の問題点④
　地元の地名も平板になる　46
鼻に抜ける音が抜けると　47

第三章　日本語はむずかしい

これ、間違いですよ　52
青田買い？　青田刈り？　52
情けは誰のため？　53
「気がおけない」の気が知れない　56
私には役不足？　58
「耳障り」なのに「耳ざわりがいい」　59
濡れ手でアワを食う　60
名誉を挽回するつもりだった　62

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

二つの言葉が一緒になった　63
こんなにある「馬から落馬」　66
まだまだある間違い言葉　69
言葉の問題点⑤
漢字か感字か　73
言葉の問題点⑥
閑話休題　75

第四章　日本語を捨てようとしたことも

日本語をアルファベットに？　78
「フランス語にしよう」と志賀直哉　79
「ローマ字に変えなさい」の提案も　81
漢字を減らす方向へ　85
言葉の問題点⑦
文化審議会国語分科会とは？　87
言葉の問題点⑧
学年別漢字配当表のナゾ　88
日本語は論理的でない？　89
言葉の問題点⑨
「へ」か「に」か　91
論理的でないのはどちら？　93
言葉の問題点⑩
「象は鼻が長い」　95

第五章　漢字もあるからいい感じ

三種類の文字を使い分ける　100
言葉の問題点⑪
韓国語か朝鮮語か　101
言葉の問題点⑫
人工的に作られたハングル　102
日本語はどこから来た？　103
日本語は南インドから来た？　105
はじめは漢字だけだった　106
漢字からひらがな、カタカナが！　107
言葉の問題点⑬
漢字は象形文字　108
日本で作った漢字も　109
漢字は新しい言葉を作りやすい　110
漢字があると読めなくてもわかる　112
新聞広告もスペース節約　114
「しあん」という言葉に「しあん」　115
日本語はテレビ的　117
言葉の問題点⑭
東海村の臨界事故　118
氾濫するカタカナ語　120
カタカナ語の発音違い　122
カタカナ語が省略されると　123

第六章　言葉は生きている

吉田兼好も嘆いた言葉の乱れ　126
時代とともに言葉は変わる　126
「ハ」は「ファ」と発音していた　127
言葉の問題点⑮
江戸時代の若者言葉　129
「こだわる」にこだわる人　130
言葉の問題点⑯
「ネ・サ・ヨ」追放運動　131
「全然悪い」と言うのは全然へん？　132
「とてもおかしい」はおかしい？　134
「ら抜き言葉」も定着する　135
鼻濁音が消えるのも歴史的必然　137
言葉は多数決で決まる　138
読み間違いが定着する　139
正しい読み方を知って困ることも　140
言葉の「ゆれ」か「乱れ」か　143
言葉の変化の必然性　144
言葉の使用法の変化を放送は追認　145
生きている言葉は変化する　146
言葉の問題点⑰
E電は消えてしまった　148

第七章　言葉は文化を映す

「発見」か「到達」か　150
日本も「発見」されていた！　151
地球の裏側？　152
表日本と裏日本？　152
「逆単身赴任」は地方差別だ　153
主婦は「留守番」？　154
言葉の問題点⑱
ポリティカリーコレクト　156
「言霊」という言葉、知ってますか　157
「言霊」が支配する国・日本　158
所と時代が変われば意味が変わる　161
「頑張れ」とは何を頑張るの？　163

第八章　敬語を敬遠しないで

なぜ敬語が必要なのか　168
言葉の問題点⑲
「御中」を「ギョチュウ」　169
敬語を敬遠している人たち　169
大人たちの間違い敬語　170
「自分で自分をほめてあげたい」？　172

敬語は乱れているのか 174
敬語の三つの種類 176
目上の人に「あなた」と言えない 178
「敬語はウソの言語表現」との批判 180
相手の呼び方で二人の仲がわかる 181
世界各国の言葉に敬語はある 183
敬語は相手への思いやり 184
「相互尊敬」の敬語使用を 186
敬語に神経質にならないで 187
言葉の問題点⑳
敬語はどうなる？ 188

第九章　日本語は美しい

言葉は変化するもの 192
算数が得意なのは日本語のお蔭 193
言語をめぐって国論が対立しない 195
大学教育を母国語で学べる幸せ 197
母国語と母語はどう違う？ 198
言葉の問題点㉑
国語か日本語か 201
言葉は一〇〇〇年の時を超える 202

「アイ・ラブ・ユー」の伝え方 205
人間は言葉で心を伝える 205
日本語を武器に 206
あとがき 209
主要参考文献 212

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

その日本語、伝わっていますか?

池上　彰

講談社+α文庫

文庫版によせて

「うちの嫁がね……」とテレビで芸人さんが話していて、驚いたことがあります。この芸人さん、息子が結婚しているような年齢には見えなかったからです。そのうちに、話の内容から、自分の妻のことをこう呼んでいることに気づきました。

そもそも、一般的には、嫁とは息子の配偶者を指す言葉。姑が、「うちの嫁はね……」という言い方をしますね。ただ、関西では、妻のことを「うちの嫁さんが……」という言い方もするようで、関西出身の芸人さんが大勢テレビで活躍するようになって、いつしか妻＝嫁というのが広まったようです。テレビの影響力の大きさもさることながら、言葉は絶えず変化していることを痛感するエピソードです。

女子高校生が、「あの人ヤバイ」と言っているのを聞いて驚いたこともあります。私の常識では、「ヤバイ」人といえば、犯罪者か、その筋の人のことだったのですが、「強く惹かれる」という意味で使っているのですね。「あ、ヤバイ。このままで

は、あの人に惹かれてしまう」という自分の心の動きを短縮した言い方が、「あの人ヤバイ」になったのではないでしょうか。こうなると、「ヤバイ人」とは、どちらの意味か、常に文脈で判断しなければなりません。

本書の元本は二〇〇〇年に発刊されました。あらためて読み直してみると、「いまは間違った言い回しだが、いずれ定着することになるでしょう」と私が書いていたことの多くが、すでに辞書に掲載されています。「みんなが使えば、間違った言い方も正しくなる」という法則通りです。言葉づかいは〝多数決の論理〟で変化していくのです。このため、「ら抜き言葉」など、当時は間違った使い方として例に出した言葉づかいをはじめ、いくつもの例を、文庫化にあたって削除することにしました。すっかり定着し、『広辞苑』にも掲載されているからです。

言葉は絶えず変化しています。その変化の過程には、ドラマがあります。言葉の面白さにも気づかされます。そんな日本語の面白さを知った上で、あなたの使う日本語が、相手にきちんと伝わりますように。

二〇一一年二月

ジャーナリスト　池上（いけがみ）　彰（あきら）

まえがき

一九九九年（平成十一年）九月、茨城県東海村のウラン燃料製造工場で、日本初の「臨界事故」が発生しました。現場の作業員や地元住民が「被ばく」する大事故でした。このとき「被ばく」という言葉から、多くの人が「被爆」という文字を頭に思い浮かべ、とんでもない爆発事故が起きたと誤解しました。原爆の爆発を受けることを被爆と言うからです。海外のマスコミも、「日本の東海村の核燃料工場で爆発事故」と速報しました。

しかし実際には、「被曝」したのでした。「被曝」とは、放射線に曝されることです。つまり爆発に巻き込まれたのではなく、放射線を浴びたのです。

どうしてこんな誤解が生まれたのか。「曝」という文字が常用漢字ではないため、テレビも新聞も「ばく」とひらがなで表記したのが、思わぬ誤解の原因でした。

日本語には、耳で聞いただけでは意味がはっきりしない同音異義語がたくさんあり

ます。漢字を見て初めて理解できる言葉が多いのです。「ひばく」もそのひとつですが、常用漢字の制限に忠実な表記をしたため、誤解を招いてしまいました。

まことに日本語とは、むずかしく、疑問に満ちた言葉です。

＊

ＮＨＫ総合テレビ「週刊こどもニュース」に出演しているとき、出演者の子どもが「これ、食べれるのかな」と言うやいなや、すかさずお父さん役の私が、「食べられる、でしょ」と口をはさみます。子どもは、私の顔を見て苦笑（にがわら）い。「あ、また言われちゃった」という顔をします。

どの子どもたちとも、このやりとりが続きました。このやりとりを、年輩の視聴者は「よくぞ言ってくれた」と受け止めてくださいますが、若い人たちからは「何を言っているんだろう」という反応です。

「ら抜き言葉」に加えて、「ムカつく」「うざい」等々、「若者の日本語は乱れている」と嘆（なげ）くことはたやすいのですが、そもそもこれは「言葉の乱れ」なのでしょうか。

私自身は決して「ら抜き言葉」を使おうとは思いませんが、しかし、「ら抜き言

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com